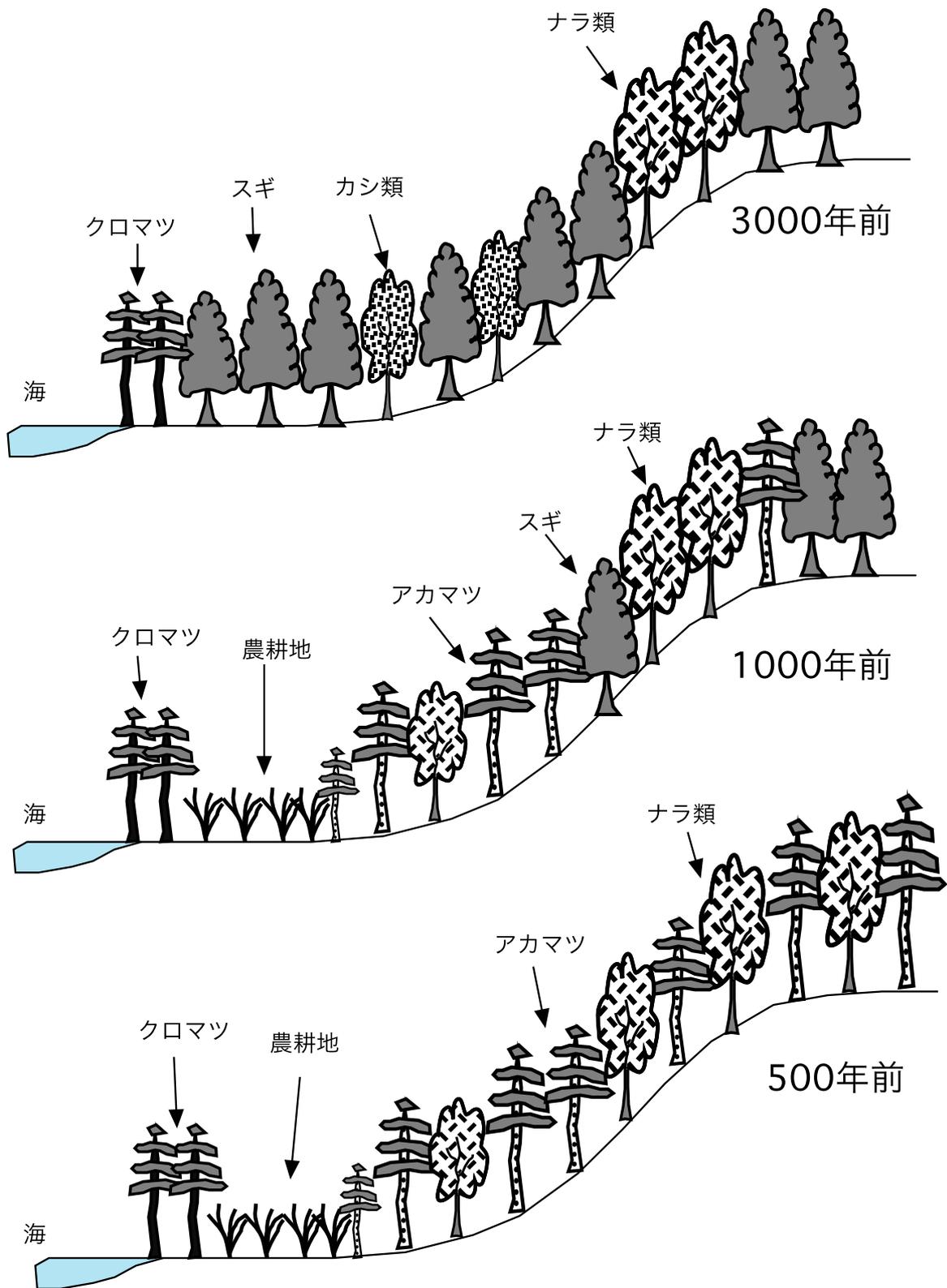


平成24年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A23	取組 名称	天橋立周辺の植生景観の変遷とクロマツ林の成立時期の解明 -天橋立の世界文化遺産登録をめざして-
研究代表者:		生命環境科学研究科	職・氏名: 教授・高原 光
研究担当者: 外部分担者・協力者 (植村善博 (佛教大学教授), 深町加津枝 (京都大学准教授), 公庄友理子 (宮津市企画総務部主査), ほか)			
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名) 京都府文化環境部文化芸術課, 宮津市企画総務部, 伊根町, 与謝野町, 「天橋立を世界遺産にする会」など			
【研究活動の要約】			
<p>本研究は, 京都府 (文化芸術室), 宮津市, 伊根町, 与謝野町が推進している「天橋立の世界文化遺産登録」に向けての, 自然科学的資料を得ることを目的としている。具体的には, 堆積物中に残存している花粉化石の種類と量を調べることによって, 天橋立および周辺の森林の景観がどのように変遷して現在に至っているか, また, クロマツ並木がいつごろから存在していたかを解明しようとするものである。このように, 本研究は天橋立の普遍的価値を自然科学的研究から解明し, 京都府および関係市町村が進めている「天橋立の世界文化遺産登録」への強力な資料を提供しようとするものである。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>天橋立の北端に近い江尻地区には, 現在, 水田として利用されている低湿地が形成されている。このような低湿地には, 周辺に生育していた植物の花粉が堆積しているため, この水田において堆積物を採取し, 化石花粉の分析を行った。採取した堆積物は, 3.3m におよび, 有機質粘土と木質の泥炭から成っていた。また, 5層準の堆積物について加速器放射性炭素年代測定によって, 堆積物の年代を測定した。</p> <p>放射性炭素年代測定の結果, 本堆積物は約3,000年前にさかのぼることが明らかになった。花粉分析の結果, 約1,000年前まではスギの天然林が優占し, ナラ類, カシ類などの広葉樹が伴う森林が広がっていた。約1,000年前には, 人間活動によってアカマツ等から成る二次林が急速に形成されたことが明らかになった。また, クロマツ型の花粉が, 1,000年前以前のスギの優勢な時代からも出現し, 少なくとも3,000年前から, 天橋立などの沿岸部にクロマツが自生していたことが明らかになった。</p>			
【研究成果の還元】			
(開催した発表会・成果報告会等の開催日、場所、参加者 等を御記入ください)			
<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年4月 京都新聞に研究の紹介 ・平成25年2月26日 NHK ニュースで上記研究成果について報道 ・平成25年4月15日に宮津市で府民向け講演会を予定 			
(報告書、論文等のタイトル、希望者への配付/閲覧の有無 等を御記入ください)			
<ul style="list-style-type: none"> ・今後, 国際的な専門誌に研究成果を発表する予定 			
【お問い合わせ先】		生命環境科学研究科	森林植生学研究室 教授・氏名 高原 光
Tel: 075-703-5683		E-mail: takahara@kpu.ac.jp	

参考 (イメージ図、活動写真等)



天橋立周辺の植生景観の移り変わり